

平成 29 年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	宮古	学校名	宮古市立津軽石中学校	TEL	0193-67-2015
------	----	-----	------------	-----	--------------

学習したことを確実に定着させるための、授業での振り返りと家庭学習指導

【今年度の目標】

- 授業での理解度の確認をするために、各授業で終末に振り返りを位置づける。
 - ◆取組指標 授業の終末5分程度を授業の振り返りを行い、「できるようになったこと」「分かったこと」を明らかにできるようにする。
 - 検証指標 「普段の授業で、学習内容を振り返る活動をよく行っていますか」に対する肯定評価を10ポイント増やす。
- 授業と連動した家庭学習に取り組みさせるために、課題点を明らかにした家庭学習計画を立てさせる。
 - ◆取組指標 毎日の終学活にその日の家庭学習計画を立て、復習や予習すべきことを明らかにできるようにする。
 - 検証指標 「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」に対する肯定評価を5ポイント増やす。
「学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間、勉強しますか」に対する「2時間以上」の回答を5ポイント増やす。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

1 昨年度までの各種調査を分析して

本校では研究主題を「一人一人の学びを保障する学習の創造～ききあい・つなぎあい・学びあう授業の実践を通して～」として、生徒同士の学びあいを大切に、授業実践を積み重ねている。生徒たちは明るく元気な生徒が多く、小学校からほぼ同じメンバーで過ごしてきたため、男女間の教え合いなどが各教科で見られるなど、生徒同士の関係も良好である。

しかし、昨年度全国学調や県学調などの各種調査の正答率や生徒質問紙回答状況を分析する中で、いくつかの本校の課題点が見えてきた。その1つに、正答率と生徒の学習に対する意識に差があることが分かった。各種調査で本校生徒の正答率は、ほとんどの教科で県正答率を下回っている。具体的には、平成28年度全国学調では、およそ1ポイント、平成28年度県学調ではおよそ3ポイント下回っている。

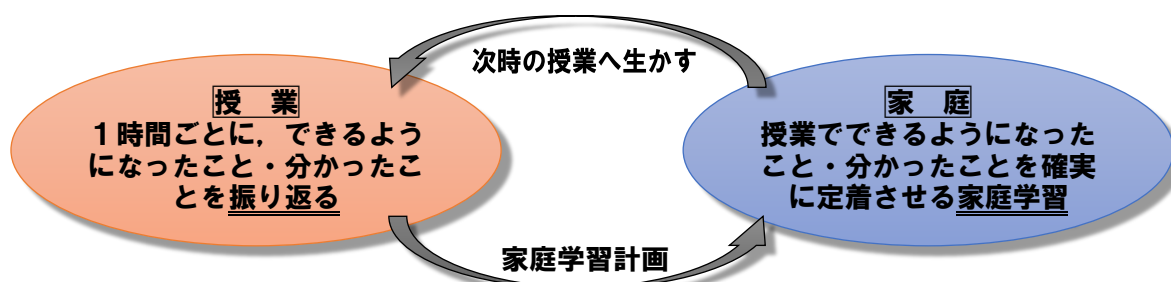
一方で生徒質問紙調査では、「授業はよくわかりますか」という質問に対し、どの教科においても肯定的評価が否定的評価を20%以上上回っていることが分かった。

これらのことから、生徒が授業で感じている「分かる・できる」という満足感に対して、各種調査の正答率は高く表れていないことが調査の中から明らかになり、この2つの「ギャップ」を埋める必要があると感じ、そのためにどのような取り組みが必要かを考えた。

【具体的な取組】

1 普段の授業と家庭学習指導の見直し

2つのギャップを埋めることは「生徒が授業で分かった・できたと実感し、それを長期的で確実な定着へ結びつける」ということである。これをサイクルとして繰り返すことによって、1単位時間の授業へ見直しをもって臨めるようになると考えられる。そのために、普段の1時間1時間の授業の見直しと、それを定着させるための家庭学習指導の見直しを図る必要があると考えた。また、授業と家庭学習の取組がサイクルとなって、生徒の満足感へとつながればよいと考えた。



【図1】授業と家庭学習のサイクル

2 1単位時間に授業を「振り返る」時間を設けること

普段の授業改善の取組として、普段行っている授業の中に必ず振り返りの時間を位置付けることにした。これまでは、それぞれの指導者で、毎時間振り返りを行っている、小単元が終わるごとに行っている、ほとんど行っていないなど、振り返りの時間の実施状況にばらつきが見られた。これを、すべての教科で毎時間、授業を振り返る時間を設けるようにした。授業での振り返りは、「いわての授業づくり3つの視点」の1つにも位置付けられており、どのような活動によって、どんなことができるようになったかを一人一人が確認することができる。

そこで本校では、振り返りの方法を以下のようにすることを全体で確認した。

【 振り返りの方法 】

- ・ 文章で書かせる時間を終末3～5分程度設定する
- ・ 小テストや評価問題は振り返りとは別に実施する
- ・ 「どのようにして」何ができる（分かる）ようになったかを書かせるようにする
- ・ 授業ノートまたは振り返りシートなどを用意して記入させる

また、図2のように振り返りの視点を6つに絞り、すべての教室に掲示し、可視化するようにした。1時間ごとに記述する振り返りは、6つすべての視点で書くのではなく、その時間ごとに指導者が指示したり、生徒が選択して書いたりすることができるようにした。

授業の振り返りで気を付けたことは「生徒が十分に授業を振り返ることができる時間を確保すること」「指導者が書かせたい振り返りの視点を明確にもって、授業を構想すること」である。

まず「振り返りの時間を確保すること」については、授業の終末に生徒が振り返りを書く時間を保障するために、指導者が教材研究をする際、導入から展開までを45分程度におさまるように構想するよう、職員全体で確認をした。

次に「指導者が書かせたい振り返りの視点を明確にもつこと」については、指導者が授業1時間ごとのねらいと学習課題をしっかりと吟味し、生徒が何を振り返ればよいか分かるように授業を展開するよう心がけた。また「できるようになったこと」「分かったこと」だけにならないよう「どのようにして」という部分を大切にし、どんな活動や思考からできたり分かったりしたのかを書かせるようにした。はじめは書くことが苦手な生徒もいることから、発表させたり、振り返りシートやノートを回収し、指導者からのコメントを入れたりすることによって、書き方を少しずつ自分で理解できるようにした。

～ 振り返りの視点 ～

- ① 分かったことは？
- ② できるようになったことは？
- ③ どんな考えを使って解くことができたか？
- ④ 友達の考えで良かったことは？
- ⑤ 疑問に思ったことは？
- ⑥ これから頑張りたいことは？

【図2】振り返りの視点（教室掲示）

8/29 4枚時	消化と吸収について理解しよう。	小腸の柔毛が脂肪酸とモノグリセリドが合併して脂肪粒することや、どのような仕組みになっているのかが分かった。
-------------	-----------------	---

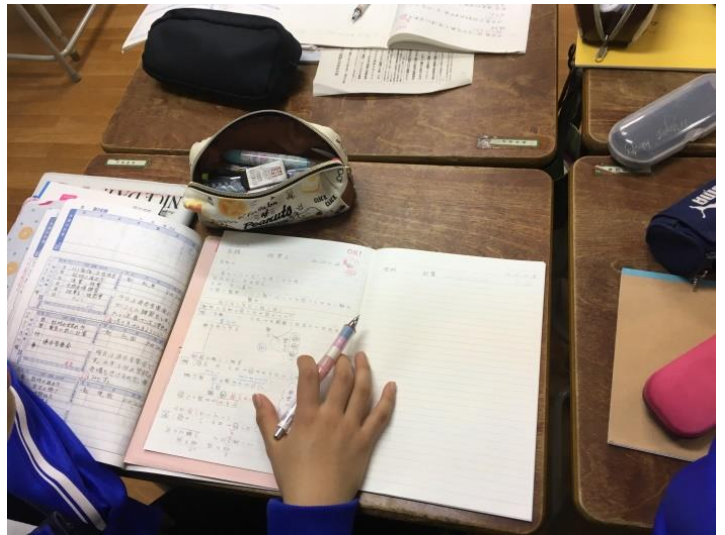
13 9月8日(金) 3時間目	数量の関係を1次関数とみなして気温を予測することができる。(p.81)	関係を1次関数とみなして、直線のグラフをかき、そこから答えを予測することができました。
-----------------------	-------------------------------------	---

【写真3】振り返りの例（上：2年理科，下：2年数学）

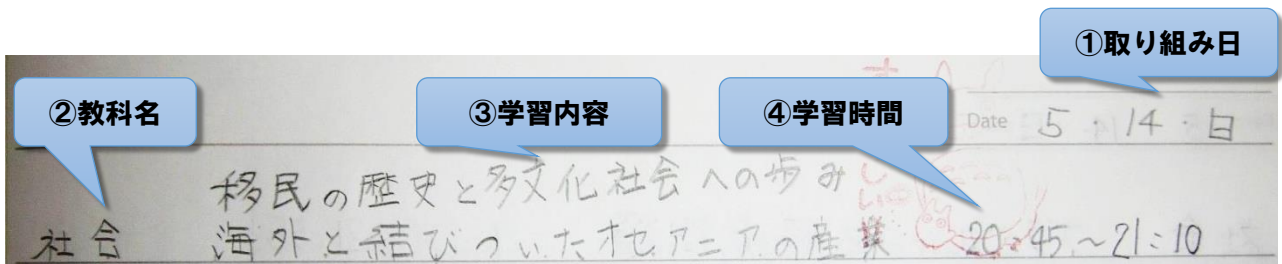
3 その日の授業内容を定着させる家庭学習の計画を立てさせること

家庭学習指導の取組として、全校で毎日取り組ませている一人勉強ノートの使い方から見直すことにした。それまでの一人勉強ノートのルールは、1日2ページ以上取り組むこと以外設定していなかった。そのため、この2ページを有効に利用している生徒と、毎日同じ内容の繰り返しやノートのスペースを埋めるだけの内容になっている生徒の両方がいた。そこで、一人勉強ノートの使い方を見直し、新しいルールを作ることにした。

まず、終学活の終末5分程度で、その日の一人勉強ノートの計画を立てたり、各教科から出された課題を確認したりする時間を設定した。一人勉強ノートについては、以下の4点を写真5のように計画させ、書かせるようにした。



【写真4】終学活で家庭学習計画を立てる



【写真5】一人勉強ノートの学習計画

また、生活の記録ノートには、写真6のように、一人勉強ノートを含むその日に取り組む必要がある課題についての計画を立てさせるようにした。生活の記録ノートでの計画の立て方のルールは以下のとおりである。

【生活の記録ノートに計画を記入させるときのルール】

- ① 家庭で何を学習する必要があるかを考えさせる
- ② 机を寄せ合い、4人グループ隊形で学習計画を立てさせる
- ③ 各教科からの次時の連絡や課題の連絡は、具体的な内容を書かせるようにする

①については、毎日同じ学習の繰り返しにならないよう、計画を立てる前にその日の授業では何を学習したかを確認させるようにした。教科書やノートなどを見返しながら、必要な学習を一人一人にじっくりと考えさせ、②のように4人グループ隊形による活動を取り入れることで、お互いの計画を見合うことができるので、計画を立てることが苦手な生徒でも、計画を立てる力を身に付けることができた。

③については、計画を立てやすくするため、各学級に設置されている教科連絡黒板に、それまで次時の授業内容を「前回の続き」のような書き方をしていたものを、具体的に小単元の内容などを書いて連絡するようにし、その日に何を復習しておく必要があるか分かるようにした。同じように、各週の週末には各教科からの週末課題が出されるが、図7のようにその内容について指導者が意識してどんな週末課題の内容かが分かるように記入し、生徒に配布するようにした。

今日の家庭学習	教科	内容	時間
	社会	人口の特色	8:30~9:30
	理科	化学変化と質量	9:30~10:30
			~

【写真6】生活の記録ノートの家庭学習計画

2 学 年					
教科	国語 (藤田先生)	社会 (直生先生)	数学 (田山先生)	理科 (資洋先生)	英語 (田中先生)
課題	ワークp16-20 敬語・語句	地理ワーク p12-13を 自主学習ノートの p7に取り組み	連立方程式の 解き方 プリント1枚	化学反応と質量 入試問題	ワーク p21-23 未来 (be going to)
提出日	6/12	6/12	6/12	6/12	6/12
提出方法	教科リーダーへ	教科リーダーへ	教科リーダーへ	教科リーダーへ	朝 教科リーダーへ

【図7】週末課題一覧表

【成果】

(1) 「自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対する肯定的評価の割合(%)

	全国学調 (H29. 4)	学習アンケート (H29. 5)	学習アンケート (H29. 7)	県学調 (H29. 10)	学習アンケート (H29. 11)
1 学年	—	73.8	65.1	—	74.4
2 学年	—	58.3	58.3	61.1	77.8
3 学年	61.0	63.4	70.7	—	56.1

(2) 「普段の授業で、学習内容を振り返る活動をよく行っていますか」に対する肯定的評価の割合(%)

	全国学調 (H29. 4)	学習アンケート (H29. 5)	学習アンケート (H29. 7)	県学調 (H29. 10)	学習アンケート (H29. 11)
1 学年	—	76.2	79.1	—	79.1
2 学年	—	72.2	86.1	100.0	100.0
3 学年	63.4	63.4	68.3	—	61.1

(3) 「学校の授業以外で、1日にどれくらいの時間、勉強しますか」に対する「2時間以上」の回答の割合(%)

	全国学調 (H29. 4)	学習アンケート (H29. 5)	学習アンケート (H29. 7)	県学調 (H29. 10)	学習アンケート (H29. 11)
1 学年	—	51.2	30.2	—	51.2
2 学年	—	11.1	16.7	13.9	30.6
3 学年	43.9	51.2	24.4	—	46.7

※ 学習アンケート(5月・7月・11月)は、本校独自に行ったアンケート

(1)については、3学年を除いてだが、1学年、2学年では肯定的評価が上昇している。また、各学年とも終学活での家庭学習計画を立てるという時間が習慣化されてきているので、数値としては表れていないが、できている生徒がほとんどであると考えられる。

(2)については、4月から比べ、ほとんどの学年で数値が上昇しており、2学年では県学調生徒質問紙と11月の学習アンケートにおいて100%の肯定的評価を得ることができた。

	国語	数学	社会	英語	理科
本校正答率(%)	63.9	54.9	55.9	59.3	53.4
県正答率(%)	62.5	51.1	49.6	53.7	45.9
差(ポイント)	+1.4	+3.8	+6.3	+5.6	+7.5

【表8】平成29年度県学調正答率

<指導者の視点から>

- ・授業での振り返りまでを含めた教材研究を行うことで、指導の目標や学習課題の吟味がよりできるようになった。また、振り返りの内容を指導者が確認することが自らの授業を振り返ることになり、指導と評価の一体化につながった。
- ・終学活で家庭学習を計画する時間を設けることによって、取り組む前に一人勉強の内容を指導することができ、学習内容の改善に努めることができるようになった。

<生徒の視点から>

- ・1時間ごとに授業を振り返ることによって、それまで「なんとなく分かった」や「やってみたらよく分からないけどできた」という生徒が、「なぜできる・分かるようになったか」を考える様子が見られ、はじめは書くのに抵抗を示す生徒も短時間で振り返ることができるようになった。
- ・その日の授業内容を生かした一人勉強の内容を考える時間が与えられることによって、同じ内容の繰り返しになる一人勉強が減り、内容の改善が見られた。

◆今後について◆

今年度の県学調では県正答率を全教科において上回ることができ、生徒質問紙調査で「授業はよくわかりますか」という質問に対しても、全教科で肯定的評価を得ることができたことで、「できる・分かる」と「正答率」の間のギャップを縮めることができたと考えられる。

一方で1日の学習時間については、全体で50%を超えることができなかった。これは学習計画を立てることによって、生徒が効率的に学習できるようになったことや、2時間以上学習するような課題を指導者から与えていないことが原因であると考えられる。これらを改善するためには、家庭学習につなげられるような授業の振り返りをさせることや、振り返り後に指導者からどのような家庭学習をすればよいかを具体的に示すことなどが必要であると考えられる。